

第19回災害対策本部会議における知事コメント

警戒しておりました台風13号は、既に熊本県から遠ざかっており、県内への大きな影響はなかったということで、やや安堵しております。

その中でも、ブルーシートを張る作業に急ピッチで御対応いただいた、建設業協会や鳶土（とびど）工業連合会、造園建設業協会をはじめとする関係団体、自衛隊の皆様、全力で御協力いただき、本当にありがとうございました。

また、休日を含め、連日最前線で支援に当たっていただいている被災市町村、県内外の応援職員、各省庁をはじめ関係機関の皆さま、そして全国から駆け付けていただいている多くのボランティアの皆さまに、改めて感謝申し上げます。

さて、本日は、八代市において、避難所や農業用水路の被災箇所、日奈久温泉などを訪問させていただき、現地の皆様からお話を伺って参りました。

避難所については、国のプッシュ型支援によるエアコンが設置され、適切な温度が保たれておりました。また、パーティションにより、プライベート空間が確保されるなど、少しでも避難所生活が快適になるような工夫がなされていました。

日奈久温泉では、地震により建物や温泉の配管などの施設が損壊し、（国登録有形）文化財にも大きな被害が出ています。今後、観光地としての機能を取り戻していくため、過去の復旧・復興の事例も参考にしながら、なりわいの再建に尽力して参ります。また、被害の少なかった観光地では、宿泊のキャンセルが相次ぐなど、影響が出ています。風評被害を防ぐため、正確な情報発信に努めるとともに、被災者の支援を第一としながらも、地域経済をしっかりと回していく取組みも進めていかなければならないと考えております。

明日以降も被災地を訪問し、課題等の把握を進め、一日でも早く被災された皆様の生活環境の改善が図られるよう、国や関係機関の皆様とともに、スピード感をもって様々な対策を講じて参ります。

また、昨日から、金子国交大臣に熊本を訪問いただき、被害にあった道路や橋りょう、港湾等を御視察いただいております。この後、私からも、熊本の現状や生活を支えるインフラの早期復旧に向けた支援等について、直接お伝えしたいと考えています。

さらに、本日はアメリカのグラス米駐日大使、ジョスト在日米軍司令官にも、熊本にお越しいただき、激励のお言葉とともに、支援物資を御提供いただきました。国内だけではなく、海外からも御支援、応援いただいていることが、復旧・復興に向けた熊本の大きな活力になります。

たくさんの方々が熊本を支え、エールを送ってくれています。それらを胸に、昨日より今日、今日より明日と、着実に前進していきましょう。引き続きよろしくお願いします。